

平成 21 年 4 月 30 日現在

研究種目：基盤研究(C)  
研究期間：2006-2009  
課題番号：18520611  
研究課題名（和文）南西諸島における高齢化対応型地域社会の形成と構造に関する  
人文地理学的研究  
研究課題名（英文）Geographic study of formation and structure of aged community  
in Nansei Islands  
研究代表者  
須山 聡 (SUYAMA SATOSHI)  
駒澤大学・文学部・教授  
研究者番号：10282302

研究分野：人文地理学  
科研費の分科・細目：人文地理学  
キーワード：高齢化社会，地域社会，島嶼地域

#### 1. 研究計画の概要

本研究計画は、南西諸島を中心とする西南日本の島嶼部における超高齢化進展地域を対象とする。当該地域においては高齢者が尊重され、若い世代とともに充実した老後を過ごす地域が多数見いだされる。本研究計画ではそのような地域を「高齢化対応型地域社会」と定義し、高齢化対応型地域社会の形成過程と内部構造を人文地理学の立場から調査・分析する。具体的には、a) 高齢者の移動と人口動態、b) 産業における高齢者の役割、c) 高齢者を取り巻く地域社会の環境、および d) 高齢者和其他の世代との相互関係、の4点を中心に分析する。これらに基づき、高齢者にとってQOLが高い地域社会を構築するための方策の提案を目標とする。

#### 2. 研究の進捗状況

奄美群島、五島列島、および大東諸島における研究で当初想定していた成果が得られた。すなわち奄美大島での調査からは上記b)にあたる成果が得られた。すなわちサトウキビ農業の大規模化は、高齢化によるサトウキビ農業からの農家の離脱とともに進展したことが明らかとなった。また五島列島ではc)に対応する成果が得られた。高齢者が維持していた信仰スタイルや教会行事が、キリシタン信仰の観光資源化に際して利用されたことが明らかとなった。またd)に関して、大東諸島の開拓の記憶が高齢者から現在の担い手世代に継承されていることも明らかになった。

#### 3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

主要な4課題のうち3課題について結論的な成果が得られた。a)の人口移動についても、論文等の形で公表するには至っていないが、研究そのものは進行している。連携研究者の鄭は奄美大島における退職Uターン者の人口移動研究を継続しており、平井は高齢者の人口移動を計量的に分析している。

#### 4. 今後の研究の推進方策

本研究計画は今年度が最終年度であり、研究のまとめと展望を行うことが本年度の主要な目標である。高齢化に対応した地域社会の姿が明らかになりつつあり、これに関するシンポジウムの開催を予定している。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 13件)

須山 聡：奄美大島北部におけるサトウキビ農業の大規模化と農村の高齢化，駒澤地理，45，2009，1-29，査読あり

平岡昭利：明治末期 北西ハワイ諸島における鳥類密漁事件 - バード・ラッシュの一幕 - ，下関市立大学論集，51，2008，71-79，査読なし

MATSUI Keisuke : Recent Trends in the  
Geography of Religion in Japan ,  
Geographical Review of Japan , 81 , 2008 ,  
311 ~ 322 , 査読あり

〔学会発表〕(計 3件)

平岡昭利・須山 聡・宮内久光：離島に吹  
く新しい風を捉える（公開シンポジウムオ  
ーガナイザー）日本地理学会，2007年10月  
6日，熊本大学

〔図書〕(計 3件)

平岡昭利編『離島研究III』海青社，2007  
年，223ページ